

科目名	製図	校長		教頭	
履修学科	インテリア科	担当者			
履修学年	第1学年		履修単位	2単位	
概要及び目標	インテリア製図の基礎的学習をふまえ、家具図面の作図技術を習得する。 JW-CAD の基本操作方法の取得と色々な図形の作図の能力を身につける。また建築の基本構造である柱、梁、壁などを学び、建築の平面図を描けるようになることを目的とする。				
評価基準 及び方法	手書き課題図面、CADの課題図面をすべて提出すること。 出席状況・授業態度を考慮します。				
使用教科書 及び教材	インテリア製図教科書、 3級CAD検定、インテリア製図教科書を参照して図面を描く。				
その他留意点	手書きとCAD作品の2ローテーションを、交互に学習していく。				

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考	
4	1. 文字・線の練習・縮尺について	[手書きによる製図] 設計製図は、物を生産・消費する場で「図」によって考えを吟味し、プレゼンテーションするための技法である。また、示唆に役立つ為の技法である。 今回の課題は住宅の計画・設計がねらいである。 文字や線の練習、縮尺の理解と表現を学んでいく。		
5	2. 椅子の三面図			
6	3. 机の三面図			
7	4. カップボード三面図 5. ツール			
8	6. 技能検定3級課題			
9	7. 住宅基礎平面図 8. 学習のまとめ			
10	1. 起動・終了入力操作 2. JW-CAD 基本操作 3. 作図練習		[コンピュータによるCAD製図] コンピュータの基本的な使用方法を学ぶ。 CADの基本操作と色々な図形の作図、家具図面の作図を学ぶ。 建築製図・インテリア製図の基本平面図を学ぶ	
11	4. 椅子の三面図			
12	5. 机の三面図			
1	6. 技能検定3級課題図			
2	7. カップボード三面図			
3	8. 学習のまとめ			

インテリア 科	科目名	インテリアエレメント生産	担当者	
履修学科	インテリア科			
履修学年	第 1 学年	履修単位	2 単位	
概要及び目標	インテリアの分野で使用される木材を中心とした各種材料の性質と家具の構成や機械の特性・操作について理解し、工業技術基礎や課題研究等の製作実習の基礎的知識を学ぶ。			
評価基準及び方法	定期テスト、小テストまた課題の提出物等を中心にし、授業態度・出席等を総合的に判断し評価します。			
使用教科書及び教材	株式会社海文堂「インテリアエレメント生産」 その他 工具や模型			
その他留意点	実習等に関連づけて学習する			

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	1 木材と加工	オリエンテーション・(1) 木材の性質	
5	木材と加工	(2) 木質材料 (3) 木材加工の基礎	
6	金属材料	(1) 種類と性質性質 (2) 製品と規格 (3) 成形加工法	
7	プラスチック材料	(1) 種類と性質 (2) 製品 (3) 成形加工	
9	テキスタイル	(1) テキスタイルの分類 (2) テキスタイル製品 (3) テキスタイルの加工と規格	
10	セラミックス その他	(1) ガラス (2) ほうろう (3) 粘土焼製品	
11	接着	(1) 接着の基礎 (2) 接着剤 (3) 接着用具	
3	表面処理	(1) 塗装 (2) 塗料の種類 (3) 塗装用具	

科目名	インテリア計画	校長		教頭	
履修学科	インテリア科	担当者			
履修学年	第 1 学年		履修単位	2 単位	
概要及び目標	人間が社会生活を送る多様な空間の概念を理解し、インテリア計画の基礎となる造形的完成と空間的心理及び、環境問題に関する知識や技術を習得し、活用する能力と育成を目的とする。具体的目標として、インテリア各種空間の設計に発展する基礎知識を学ぶ。				
評価基準及び方法	学期ごとの定期考査、プリント提出、小テスト、授業態度や出席などを総合的に判断し評価する。				
使用教科書及び教材	教科書：インテリア計画				
その他留意点	実習等に関連づけて学習する				

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	オリエンテーション インテリア計画の概要①	・インテリア計画の概念・インテリア計画について	
5	インテリア計画の概要② 住まいの性能	・住まいのとらえ方・生活像の把握 ・ユニバーサルデザインについて ・性能のとらえ方・住まいの快適性と健康・安全	
6	インテリアの造形と心理①	・感覚の特性(感覚の種類と質・感覚の強さ) ・ウェーバー・フェヒナーの法則	
7	視覚と視覚特性	・視覚と視覚特性について(視野・視線・距離と見え方・可視光域と順応・視覚の特性)	
9	形態について学ぶ	・形態の分類について(点の種類と表情・面の種類と表情)(平面・曲面) ・形態の概念(室内の構成要素)(機能と形態)	
10	色彩とテクスチャー	・色彩の概念と分類 ・色彩の表示系と配色について	
11	空間の認知	・空間定位・スケール感について・開放感と閉鎖感 ・空間行動の諸相・ポピュレーションステレオタイプとは・人の位置と向き	
12	インテリアの環境①	・気温・湿度・風・雨・日照・日射について	
1	インテリアの環境②	・光・採光・照明について	
2	インテリアの環境③	・騒音・熱・空気・シックハウスについて	
3	インテリアの環境④ 総まとめ	・照明の種類・照明の方式	

インテリア 科	科目名	工業技術基礎	校長印		教頭印	
履修学科	インテリア科		担当者			
履修学年	第 1 学年	履修単位	3 単位			
概要及び目標	1年工業技術基礎は、工具メンテナンス班・塗装班・図学デザイン班・NC木工班の4グループにわかれ、7週でのローテーションでインテリアの基礎を学習する。					
評価基準・及び方法	課題提出物などを中心にし、授業態度や出席などを総合的に判断し評価する。					
使用教科書 及び教材	インテリア製図・カンナ・砥石・金剛砂・画用紙・ケント紙・鉛筆・消しゴム（練り消しゴム）・絵の具・筆・パレット・バケツ・直定規・三角定規・コンパス・羽ぼうき・ポスターカラー・木材・パソコン・ラッカー塗料・ウレタン塗料・オイルステイン・サンドペーパー					
その他留意点	3単位の工業基礎を年間、4ローテーションで行う。各分野に関連づけて学習する					

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	合同説明 授業説明（工具メンテナンス班・塗装班・デッサン班・図学班） 【木工】①	オリエンテーション：年間で4班のローテーションで授業を行う。各班にて授業準備や学習の進め方等の説明。 【木工】 木材加工を基礎から学ぶにあたり、工具の名称、使い方等を学ぶ。	
5	【木工】②	「新調鉋」の手入れ ①基本的な扱い方（刃物である事の注意）②研ぎの工程③台直し④削り等の工程説明	
6	【木工】③	「技能検定3級課題作成」 墨付けを行い、作品制作を行う。	
7	【図学・デザイン】①	【図学・デザイン】 製図の基礎となる平面図法について学ぶ。用具の使用法と材料について平行定規・三角定規・コンパスなどを用いた、基本的作図方法。平面図法から一点透視図法、二点透視図法を学ぶ	
8		線の練習などを通して鉛筆デッサンについて学ぶ。色の三属性を学び、色彩計画を立てる。配色について学び、配色によってうける印象などの違いなどを学ぶ。	
9	【図学・デザイン】②		
10	【NC木工】①	【NC】機器の基本操作方法と特性を学ぶ。また安全な使用方法を習得する。	
11	【NC木工】②	子ども椅子の製作を通してNC機器の理解を深める。	
12	【NC木工】③	NCの更なる可能性に着目し、幅広い利用法を模索する	
1	【塗装】①	【塗装】用具の使用法と塗装工程の知識と習得。	
2	【塗装】②	サンドペーパーで木材を磨き、塗装の下地調整。	
3	【塗装】③	下地調整した木材に、仕上げの塗装を施す。	

令和5年度 工業情報数理シラバス

学校名		課程	校長名	教頭名		担当者名					
沖縄県立浦添工業高等学校		全日制									
科目名	単位数	標準単位数	対象学科・コース・類型・系列	対象学年・組	必修・選択	使用する教科書					
工業情報数理	2	2～4	インテリア科	1年4組	必修	実教出版「工業情報数理」					
特記事項	※標準単位数を下回る場合の理由とその対応策等、必要に応じて記載する欄とする										
科目目標	<p>(1) 工業の各分野における情報技術の進展、情報の進展、情報の意義や役割、数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。【知識・技能】</p> <p>(2) 情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。【主体的に取り組む態度】</p>										
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に取り組む態度							
	情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技能を身につけている。	諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、問題解決方法を適切に判断し、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。		情報技術に関する基礎的な知識と技術を用いて、工業の発展に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。							
年間指導計画表											
月	予定 時数	実施 時数	指導項目	指導内容(教科書)	評価の観点			評価規準・評価方法			振り返り
					知	思	態	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
4 5 6	4	6	ア 情報料の進展と産業社会	・コンピュータの歴史と特徴、コンピュータの利用形態、情報技術の進展が産業社会に及ぼす影響などを取り上げ、工業に携わる者として情報を活用できるように指導する。(精選工業情報数理P14～19)				・情報・情報処理・データ・ICTなどの用語を理解している。 ・問題の発見・解決の手順について理解しており、グループでの話し合いの進め方やKJ法などの技術を身につけている。 ・情報を適切に収集・分析・活用、デザインして表現する知識と技能を身につけている。	・情報技術の進展にともない産業社会におよぼす影響について、光と影の部分に関して思考・判断でき、自分の考えを表現できる。 ・コンピュータがパソコンだけでなく、制御や通信など多くの機器に組み込まれ活用されていることが考察し、発表できる。	・コンピュータの特徴とコンピュータを用いることの意味に関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。 ・コンピュータが身のまわりのさまざまなものに組み込まれ、さらにインターネットなどに接続され利用されていることに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。	※年度末のPDCAサイクルのための点検入力欄
			イ 情報モラル	・個人情報などのデータの取扱い、プライバシーを保護する観点から取り上げ、工業に携わる者としての情報に対するルールやモラルまた、著作権などの知的財産の制度や保護についても指導する。(精選工業情報数理P20～23)				・情報機器やSNSなどの利点や欠点、危険性、正しい取り扱いについて理解し、自分たちがすべきことについて、具体的に考え、お互いの意見を述べたり発表したりできる。 ・知的財産権について理解している。 ・情報化社会が進展するにつれ、守らなければならないマナーやモラルが重要であることを理解している。	・情報機器やSNSなどのサービスを取り扱ううえでの社会人としてのルール、モラルやマナーなどについて、具体的に考え、お互いの意見を述べたり発表したりできる。	・知的財産権・プライバシーの保護・コンピュータの不正利用対策・コンピュータウイルス、およびそれらの対策などに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。	
			ウ 情報のセキュリティ管理	・コンピュータの不正使用、コンピュータウイルスなど取り上げ、その対応策としてデータの暗号化技術、電子認証技術、コンピュータウイルスなどの対策ソフトウェアの活用などについて指導する。(精選工業情報数理P24～28) ・コンピュータの誤作動や障害が産業社会に与える影響とその対応策について指導する。(精選工業情報数理P28～29)				・情報の不正利用防止やセキュリティ対策について理解している。 ・データの暗号化技術および認証システムなどについて理解している。	・コンピュータの不正利用防止のために、それらの実態を知り技術的な対応方法が必要であることが考察し発表できる。 ・問題の発見・解決に向けて具体的に考え、お互いの意見を述べたり発表したりできる。 ・情報の適切な収集・分析・整理に関して思考・判断でき、自分の考えを表現できる。	・コンピュータウイルス対策や情報の不正利用防止のための基本的な技術に関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。	
7 9 10 11 12	18	8	(2) コンピュータシステム ア ハードウェア	・データの内部表現及び論理代数、論理回路、中央処理装置、周辺装置などを取り上げ、コンピュータのハードウェアの種類と役割について指導する。(精選工業情報数理P133～158)				・処理装置や周辺装置の基本的な知識を身につけている。 ・コンピュータに周辺装置を適切に接続する技能を習得している。 ・2進数と16進数について理解し、四則計算や変換計算ができる。	・コンピュータにおけるハードウェアの役割としくみを理解し、説明できる。 ・利用目的に応じた適切な周辺装置を選択し、提案できる。 ・2進数、10進数、16進数などに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。	・処理装置と周辺装置に関心がある。そして、上記の事項について意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。 ・2進数、10進数、16進数などに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。	
			イ ソフトウェア	・オペレーティングシステムやアプリケーションソフトウェアの種類と役割などを取り上げ、ソフトウェア開発の手順について指導する。(精選工業情報数理P37～76)				・マウス・タッチスクリーン・キーボードを扱う技能を習得している。 ・記憶装置を扱う技能を習得している。 ・アプリケーションソフトウェアの特徴の違いや機能について理解している。 ・アプリケーションソフトウェアに共通する基本的な操作などの技能を習得している。	・アプリケーションソフトウェアを選択することについて思考・判断でき、自分の考えを表現できる。 ・アプリケーションソフトウェアを活用して情報をデザインし表現できる。 ・Webブラウザ、日本語ワードプロセッサソフトウェア、表計算ソフトウェア、プレゼンテーション支援ソフトウェアなどに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。	・コンピュータの起動・終了、マウス・タッチスクリーン・キーボードの基本操作、記憶装置の取扱いなどに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。	
			ウ 情報通信ネットワーク	・情報通信ネットワークにおいて使用されている通信ケーブル、ハブなどの通信機器、配線形態、各種の伝送制御手順、プロトコル、停電や雷に対する安全対策などを取り上げ、データ通信とネットワークについて指導する。(精選工業情報数理P159～172)				・データ通信システムと情報通信ネットワークの概要について理解している。 ・LANの基本構成について理解し、簡単な接続ができる。 ・無線を利用した機器について理解している。 ・停電対策や雷対策について理解している。	・コンピュータ室のネットワークについて、使用されている機器を判断して、構成を説明できる。 ・家庭のインターネット接続について適切な方式を選択し提案できる。 ・家庭のインターネット接続やコンピュータ室のネットワークに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。	・データ通信の概要とネットワークの概要について関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。 ・家庭のインターネット接続について適切な方式を選択し提案できる。 ・家庭のインターネット接続やコンピュータ室のネットワークに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。	

